

厚生労働科学研究費補助金  
(地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業)  
分担研究報告書

国際保健政策人材増強のための国内環境整備施策に関する研究  
(民間セクターの実態調査)

研究代表者 山下 俊一 長崎大学原爆後障害医療研究所  
研究分担者 仲佐 保 国立国際医療研究センター  
研究協力者 野崎慎仁郎 WHO 神戸センター

研究要旨

国際機関、とりわけ世界保健機関 WHO などへの国際保健医療人材の邦人職員の増加が強く求められている。その一翼を担う為に国立国際医療研究センター内にグローバル人材戦略センターが昨年度設置された。本分担研究においては、国際保健医療政策人材の確保をめぐる障壁に関し、民間セクターの実情を調査し、民間セクターの国際的な人材登用がどのように行われているのか、それは上手く行っているのか、上手く行っているとすれば、そのシステムや手法は公的セクターのそれとどのように違うのかをセミナーやシンポジウムを開催することで明らかにし、将来にわたる国際保健医療政策人材の増加に資する課題解決について提言する。

A. 研究目的

民間セクターの動向に関する第一年次の調査結果により、民間セクターにおいても、グローバル化の中にあっても、人材登用の方法については、日本企業の文化や慣行に根差したものであることが多く、公的セクターと大きな差異がないという結論が示唆される初期調査であった。国際機関などへ邦人職員の増加をその立場や人数を目標に議論することの前に、真にグローバル保健医療政策人材とは何か、そしてその人材育成や支援の制度設計がどうあるべきかを、

民間セクターのノウハウから類推することは困難であったことから、第二年次においては、民間セクターがグローバル人材にどのような期待を寄せているかを幅広く探る為のセミナーの開催と、関係各機関のグローバル保健医療政策人材に寄せる期待を探るシンポジウムを開催することを通じて、民間セクター及び関係各機関の期待を集約することとした。

B. 研究方法

1) 民間セクター向けのシンポジウムの実

施

大阪大学を中心に設立された保健医療分野の官民協力を促進する一般社団法人医療国際化推進機構が実施する「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)産学公共創シンポジウム 世界に貢献するグローバルヘルス人材育成と成長する健康医療産業世界市場」の開催に参画し、幅広く民間セクターがグローバルヘルス人材について何を期待しているのかを探る。

## 2) 関係各機関・専門家向けのセミナーの実施

国立国際医療研究センターグローバルヘルス人材戦略センターと、国立保健医療科学院曾根次長の研究班と協力して、第77回日本公衆衛生学会総会の機会に自由集会「国際保健政策人材を増強する方策とは」を開催し、関係各機関・専門家のグローバルヘルス人材への期待を探る。

## C. 研究成果

1) 「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)産学公共創シンポジウム 世界に貢献するグローバルヘルス人材育成と成長する健康医療産業世界市場

日時：2018年11月6日(火)

13:30 - 17:00

会場：大阪大学中之島センター

主催：一般社団法人医療国際化推進機構

協力：長崎大学「国際保健医療人材」研究班

参加者：医学界、経済界、学界、経済団体、行政機関等から200名

プログラム(文中敬称略)

開会挨拶

一般社団法人医療国際化推進機構 理事長  
澤 芳樹(大阪大学教授)

ビデオメッセージ

内閣官房副長官 西村 康稔

基調講演1

「世界の保健医療・健康医療産業のトレンドと人材育成」

慶應義塾大学 KGRI 特任教授 WHO 執行理事 中谷比呂樹

基調講演2

「世界の先進医療をリードする関西へ。今こそイノベーションを」

医療国際化推進機構理事長 大阪大学大学院医学系研究科外科学講座心臓血管外科学教授 日本再生医療学会理事長 澤 芳樹

企業発表「成長するヘルス&ウェルネス世界市場とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)」

株式会社フィリップス・ジャパン 代表取締役社長 堤浩幸、営業本部 京滋北陸ブロック ディストリクト・マネージャー 佐藤隆文

Johnson & Johnson INNOVATION Director, New Ventures Japan 楠淳

日本生命保険相互会社 執行役員 営業企画部部長 岩崎裕彦

富士通株式会社 第二ヘルスケアソリューション事業本部 第四ソリューション事業部第二ソリューション開発部長 田中良樹

## パネルディスカッション

「世界に貢献するグローバルヘルスのリーダー人材育成」

座長

医療国際化推進機構理事長 大阪大学大学院医学系研究科外科学講座心臓血管外科学教授 日本再生医療学会理事長 澤芳樹  
WHO健康開発総合研究センター 上級顧問官 野崎慎仁郎

## パネリスト

常翔学園理事長 久禮哲朗  
大阪医科大学学長 大槻勝紀  
兵庫医科大学学長 野口光一  
大阪大学名誉教授 甲南女子大学教授 中村安秀

「パネルディスカッションの論点」:

誰もが健康で生き活きた生活をエンジョイ出来る健康長寿社会の構築のために、ウエルビーイングイノベーションを先導する(新たな国際社会価値の創造ができる)グローバル人材を育成し、これらの人材が持続可能なシステムを構築していくことを目指す。そのためには、「現状の日本の教育システムの隘路・課題」、「なぜグローバル人材が育たないか?」、「解決策は? どうすれば良いか?」、「21世紀に世界で生き残れる大学院構想は?」、「アジア・アフリカの学生が多数在学する国際色豊かな大学院の必要性」、「保健医療・工学・ビジネスの融合モデルの必要性」

まとめ:

グローバル人材を育成する、教育の仕組み

は絶対に必要というのが共通の理念と思います。では何故それがボトルネックとして日本で出来ていないかということ、日本の事情の中でそういう場を保つことが出来ない、そんな環境が少ないことです。今、教育の現場では色々なことで追い詰められて、大阪大学でも同じような環境にあり、そこに時間を取られています。一方で、企業はグローバル化し世界と戦っているのに、何故大学だけがグローバル化していないかというのが、突き刺さるような話です。大学の教育は皆日本語で、英語ではやっていません。そこで海外に学生を送り込んだ時に躓いてしまう、言語の問題が大きくなって来るわけです。しかし、やはり優秀な人材は大学から泉のごとく生まれています。この生まれてくる人材が企業に行ってからではなく、企業と共に企業の必要な人を育てるのが次のミッションだとしたら、この大学院構想において企業の方に一緒に入ってもらい、企業の方と共に創りたいと思います。我々は壮大な色々なことを申し上げましたが、それが本当に正しいのか企業の方にこんな人欲しいという人を、一緒に考えて戴いた大学院の方が、グローバル化も出来ますし、ブランド化もして、大きく発展していけるというのが1番のポイントと思っています。そうやって初めてトリプルwin、三方よし、と思いました。(澤芳樹座長)

開催報告書: 資料1,2

2)第77回日本公衆衛生学会総会自由集会  
「国際保健政策人材を増強する方策とは」

日時：2018年10月25日（木）

18：20 - 19：30

会場：ビッグパレットふくしま

主催：国立国際医療研究センターグローバルヘルス人材戦略センター

参加者：公衆衛生分野専門家 50名

プログラム：

座長挨拶 長崎大学・福島県立医科大学  
山下俊一

プレゼンテーション

「国際保健医療政策人材の育成」大阪大学  
馬場幸子

「国際保健医療政策人材に必要なコンピテ  
ンシー」国立保健医療科学院 大澤絵里

「WHO 等国际機関の採用状況等」長崎大  
学・WHO 神戸センター野崎慎仁郎

「グローバルヘルス人材戦略センターの機  
能」 グローバルヘルス人材戦略センター  
地引英理子

座長総括

まとめ：

本セミナーでは国際保健医療人材に関する  
2つの厚生労働科学研究班からの研究経過  
報告と始動したグローバルヘルス人材戦略  
センターの役割が紹介されて、その後、議  
論が行われた。より多くの関心が集まった  
のは「教育」の問題である。馬場先生は国  
際保健医療政策人材の送り出しの障害とし  
て、「教育」そのものがグローバル人材を育  
てるようなシステムになっていないことを  
指摘した。大澤先生はコンピテンシー開発  
の重要性を認識しながらも、グローバルに

活躍できる人材のコンピテンシー開発が現  
状の「教育」の中で出来ているのかと疑問  
を呈し、野崎は国際機関等で求められる人  
材像と国内で求められる人材像のギャップ  
を提示した。地引先生は人材登録を進める  
にあたり、量の不足の問題を指摘し、その  
原因に我が国の「教育」の問題が存在する  
可能性について言及した。

以上の議論から、大学におけるグローバ  
ルヘルス人材教育の提供の問題点が浮き彫  
りになったと考えられる。

開催報告書：資料 3,4,5,6,7

D. 考察

第一年次の計画において、企業は既にグ  
ローバル化していて、その人材育成が上手  
く回っているという仮説に基づきインタビ  
ュー調査を実施した結果、同仮説が全的  
の外れであったという結論が出た。企業にお  
いても、グローバル展開の中で、人事ロー  
テーションなども国際機関とは違い効果的  
に行われているとの錯覚があったが、実際  
には、企業においても、グローバル人材の  
確保に大きな課題があることが判明した。

その中で強調されている事項としては、1)  
ビジネスは既にグローバル化しておりグロ  
ーバルにビジネスをしなければ生き残れな  
い、2)日本の教育システムそのものがグロ  
ーバル人材の育成に合致していない、3)結  
果、企業が求めるグローバル人材が日本の  
大学教育の中で育っていない、という根本  
的な問題であった。

これは大学関係者・研究者からも多く聞  
かれたことでもあった。グローバルヘルス

政策人材と言うが、その育成をしているのは、我が国の大学教育においては、ほんの一握りの機関だけであり、その拡充強化が出来て初めてグローバルヘルス政策人材の供給が軌道に乗ると考えられる。そのような意見が多く聞かれた。

一方で WHO などの国際機関に行くための養成機関などは存在しようもなく、グローバルヘルス人材がビジネス領域においても広く求められていることを認識し、留学生の増加と合わせて、我が国の大学教育のグローバル化と企業との連携を充実させることによって、より多くの人材が生まれ、また、ビジネス、国際機関、研究機関などの人材を必要とする領域間での人材の流動性が生まれることが期待される。

## E. 結論

ビジネスセミナーにおいて、我が国のアカデミアに対する厳しい意見と期待が表明されたことにより、多くの発想の転換の必要性が示唆された。その背景には、企業が持つ競争原理の中での会社存亡の危機感の共有と、組織の生き残り戦略の実践力が、グローバルビジネスには不可欠であるとの認識が根底にあると言える。ある意味自由な大学とは大きな違いがあり、専門性や学術性を追求するあまり、視野狭窄に陥り易い大学の特性と個人の力量が問われている。

すなわち、第一に大学教育内容そのもの、そして教員自らのグローバル化が必要であること。現在、企業が欲している人材は、正にグローバルに活躍できる人材であるが、そういった人材の育成が必ずしも上手く行っておらず、海外の大学に引けを取って

る。この現状を何とか改善しなくてはならない。グローバル人材の定義が問題であるが、ここでは異なる言語圏や文化圏において、困難なことに挑戦し、失敗や挫折を復元力として、逞しく目標に向かって戦略的行動ができる人材と考えることができる。

第二にグローバルヘルス人材は実は国際機関や国際協力で働くのみならず、企業からも求められている人材像と一致するという。即ち、大学と企業が協力して、企業が求める教育を進めることができれば、そういった人材がグローバルヘルス領域でも活躍できるということであり、企業、研究、国際機関と分けるのではなく、人材がそれらの領域を絶え間なく動く人材の流動性を活性化させる必要があると言える。

これまで、多くの人材をグローバルヘルス人材として国際機関等へ送り込むについて、マッチングやコンピテンシーの問題が取り沙汰されてきたが、裾野が圧倒的に小さいという根本問題が見落とされがちであった。すなわち、日本の大学を卒業する大学生が、企業が求めるグローバル人材（バランスよく戦える人材）になっていないというビジネス界の「常識」の共有が、グローバルヘルス領域にも必要とされている。そのためには人材の裾野を広げる大学教育カリキュラムへの抜本的な改善策の提案と、本領域における国際連携を駆使した指導者ネットワークの構築による課題解決に向けた更なる努力が重要となる。

## F. 研究発表

学会公募シンポジウム申請中

G.知的財産権の出願・登録状況  
なし